

# 技術情報

J A全農やまぐち  
TAC 営農推進課 (083-988-0681)  
平成 27 年 8 月 13 日 発行  
第 206 号

## いもち病の発生拡大と防除対策

いもち病（葉いもち、穂いもち）には 7 月 27 日に**注意報が発令**されていますが、その後も葉いもちが拡大し穂いもちの被害が懸念されることから、**8 月 12 日付で、技術資料が発表**され防除対策が呼びかけられています。

つきましては、穂いもち防止に万全が期されますよう、下記及び「技術資料第 6 号(写)」を参考に、防除のご指導をお願いします。

記

### 1 今後の予想

- (1) **対象地域** : 県内全域
- (2) **発生量** : 多

### 2 防除対策

#### (1) 穂いもちの防除時期

- ・ 粉剤及び液剤 : 穂ばらみ後期と穂ぞろい期の 2 回である
- ・ 粒剤・パック剤 : 出穂前に施用する（薬剤の種類によって使用時期が異なるので注意する）

※ ただし、葉いもちが発生している場合は直ちに防除する。また、穂いもちの防除予定日まで 7 日以上ある場合は（止葉抽出前）は、葉いもちの防除を行い、その後、穂いもちの防除を実施する。

なお、治療効果のある薬剤はブラシン剤、ノンブラス剤、ダブルカット剤、トップジン剤などである。

#### (2) 防除薬剤

表（平成 27 年山口県農作物病害虫・雑草防除指導基準）を参照

### 3 留意事項等

- (1) 病害虫防除所の 8 月上旬の調査では、葉いもちが、多発した昨年より多い発生となっています。特に、発生したほ場の 88%では病斑が上位葉（3 葉以上）に発生し、容易に穂いもちへ感染する状況となっています。
- (2) 1 か月予報では降水量が平年並みまたは多いと予想されていることから、いもち病の発生が助長されると思われます。
- (3) 出穂後に天候不良が続く場合は、穂揃期の防除後 7～10 日目に再度防除してください。

# いもち病の防除剤

(平成27年農作物病害虫・雑草防除指導基準)

## 殺菌剤

系統	殺菌剤コード	殺菌剤コード	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
----	--------	--------	-----	------------------	-----------------	------	------	--------------	----

### 【粉剤】

一、マニン 生合成 阻害	U14 16.1		ブラシン粉剤DL (普)(A,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	フェリムゾン2回以内、フサライド3回以内	治療的、予防的効果を持つが発病初期の早期散布を主体とする
一、一	6 M7		フジワンベフラン粉剤DL (普)(B,A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	イソプロチオラン3回以内(移植前は1回以内、本田では2回以内)、イミノクタジン3回以内	
マニン生 合成阻 害、一	16.1 U14		ノンプラス粉剤DL (普)(A,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)、フェリムゾンは2回以内	

### 【液剤】

ベンゾイ ミダゾー	1		トップジンMゾル(普) (A)	1000倍、60~ 150リットル/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	チオファネートメチル 3回以内(但し、種子への処理は1回以内)	飼料用米(粳)に出穂以降も使用可
一	6		フジワン乳剤(普)(B)	1000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	3回以内(但し、移植前は1回以内、本田では2回以内)	飼料用米(粳)に出穂以降も使用可
マニン生 合成阻 害	16.1		ビームゾル(劇)(A) ビームエイトゾル (普)(A)	1000倍 1000倍、60~ 150リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)	青なし、野菜類の幼苗にかからないように注意する
マニン生 合成阻 害、抗生 物質	16.1 26		ビームバリダゾル (劇)(A,A)	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)、バリダマイシン6回以内(但し、育苗箱灌注は1回以内、本田では5回以内)	
マニン生 合成阻 害、一	16.1 U14		ノンプラスフロアブル (普)(A,A)	1000倍、60~ 150リットル/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)、フェリムゾン2回以内	
マニン生 合成阻 害、酸アミ ド	16.1 7		モンカットラブサイド20 フロアブル(普)(A,B)	1000~1500 倍、60~150リット ル/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	フサライド3回以内、フルトランニル3回以内(但し、小包装投入は1回以内)	
一、マニン 生合成 阻害	U14 16.1		ブラシンフロアブル (普)(A,A)	1000倍、60~150 リットル/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	フェリムゾン2回以内、フサライド3回以内	
抗生物質、一、マ ニン生合 成阻害	26 U14 16.1		ブラシンバリダフロアブ ル(普)(A,A,A)	1000倍、60~150 リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	バリダマイシン6回以内(但し、育苗箱灌注は1回以内、本田では5回以内)、フェリムゾン2回以内、フサライド3回以内	

### 【粒剤】

マニン生 合成阻 害	16.1		コラトップ粒剤5(普)(A)	3~4kg/10a	・葉いもちに対しては初 発10日前~初発時 ・穂いもちに対しては出 穂30日前~5日前まで	2回以内	散布	ピロキロン3回以内(但し、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)	飼料用米に使用可 火山灰土壌では効 果が不安定である
			コラトップ1キロ粒剤12 (普)(A)	1~1.5kg/10a	葉いもちに対しては初発 10日前~初発時、穂いも ちに対しては出穂30日前 ~5日前まで				飼料用米に使用可 火山灰土壌では効 果が不安定である
			コラトップジャンボP (普)(A)	小包装(パック)10 ~13個(500~ 650g)/10a	葉いもちに対しては初発 20日前~初発時、穂いも ちに対しては出穂30日前 ~5日前まで				火山灰土壌では効 果が不安定である
マニン生 合成阻 害、酸アミ ド	16.1 7		コラトップリンパー粒剤 (普)(A,B)	3~4kg/10a	出穂30日前~5日前まで	2回以内	散布	ピロキロン3回以内(但し、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)、フラメトビル2回以内(但し、育苗箱散布は1回以内)	
一	6		フジワン粒剤(普)(B)	3~5kg/10a	葉いもちに対しては初発 7~10日前、穂いもちに 対しては出穂10~30日 前(但し、収穫30日前ま	2回以内	水田に 小包装 (パック) のまま 投げ入 れる	イソプロチオラン3回以内(但し、移植前は1回以内、本田では2回以内)	飼料用米に使用可
			フジワンパック(普)(B)	小包装(パック)10 ~15個(750~ 1125g)/10a	葉いもちに対しては初発 7~10日前、穂いもちに 対しては出穂10~30日 前(但し、収穫14日前ま				飼料用米に使用可
一、酸アミ ド	6 7		フジワンモンカット粒剤 (普)(B,B)	3~4kg/10a	出穂30~10日前(但し、 収穫30日前まで)	2回以内	湛水散 布	イソプロチオラン3回以内(移植前は1回以内、本田では2回以内)、フルトランニル3回以内(但し、小包装投入は1回以内)	飼料用米に使用可
酸アミド	P		ルーチン粒剤(普)(A)	1kg/10a	収穫30日前まで	2回以内	湛水散 布	イソチアニル3回以内(但し、移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	飼料用米(粳)に出穂以降も使用可
一	P		オリゼメート粒剤(普)(B)	3~4kg/10a	葉いもちには初発の10日 前~初発時穂いもちには 出穂3~4週間前(但し、 収穫14日前まで)	2回以内	散布	プロベナゾール2回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内)	飼料用米に使用可 砂質土など漏水の 多い水田や養魚田 では使用しない

# 殺虫殺菌剤

系統	殺菌剤コード	殺虫剤コード	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
----	--------	--------	-----	------------------	-----------------	------	------	--------------	----

## 【粉剤1】【いもち病+カメムシ類+ウンカ類等】

フェニルピラゾール	不明	2B	トライK粉剤DL(普)(A,-)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内(但し、移植時までの処理は1回以内)、テフプロキン2回以内	-
ピレスロイド、メラニン生合成阻害	U14 16.1	3A	ブラシントレボン粉剤DL(普)(B,A,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	エトフェンロックス3回以内、フェリムゾン2回以内、フサライド3回以内	-
ピレスロイド、メラニン生合成阻害	16.1 U14	3A	ノンブラストレボン粉剤DL(普)(B,A,A)	3~4kg/または 4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	エトフェンロックス3回以内、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)、フェリムゾン2回以内	-
ピレスロイド、メラニン生合成阻害	不明	3A	トライトレボン粉剤DL(普)(B,-)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エトフェンロックス3回以内、テフプロキン2回以内	-
ネオニコチノイド、メラニン生合成阻害剤	16.1 U14	4A	ノンプラスダントツH粉剤DL(普)(A,A,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	クロチアジジン4回以内(但し、移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)、フェリムゾン2回以内	-
ネオニコチノイド、IGR、メラニン生合成阻害	16.1	4A 16	ビームアブロードスタークル粉剤5DL(普)(A,B,A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、プロフェジン4回以内(但し、小包装投入は1回以内)、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)	-
ネオニコチノイド、メラニン生合成阻害	16.1	4A	ビームスタークル粉剤5DL(普)(A,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)	-
ネオニコチノイド、メラニン生合成阻害	不明	4A	トライスタークル粉剤DL(普)(A,-)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エトフェンロックス3回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内)、フェリムゾン2回以内	-

## 【粉剤2】【いもち病+カメムシ類+ウンカ類+チョウ目等】

ネオニコチノイド、メラニン生合成阻害	U14 16.1	4A	ブラシダントツH粉剤DL(普)(A,A,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	クロチアジジン4回以内(但し、移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、フェリムゾン2回以内、フサライド3回以内	-
ピレスロイド、メラニン生合成阻害	U14 16.1	3A	ブラシンジョーカー粉剤DL(普)(A,A,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	シラフルオフェン2回以内、フェリムゾン2回以内、フサライド3回以内	-
フェニルピラゾール、ピレスロイド、メラニン生合成阻害	16.1	2B 3A	ビームキラップジョーカー粉剤DL(普)(A,A,A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内(但し、移植時までの処理は1回以内)、シラフルオフェン2回以内、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)	-

## 【粉剤3】【いもち病+紋枯病+カメムシ類+ウンカ類+チョウ目等】つづく

ピレスロイド、ベンゾイミダゾール	1	3A	トップジントレボン粉剤DL(普)(B,A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	エトフェンロックス3回以内、チオファネートメチル3回以内(但し、種子への処理は1回以内)	-
ピレスロイド、抗生物質、メラニン生合成阻害、抗生物質	24 16.1 26	3A	ダブルカットバリダトレボン粉剤3DL(普)(B,A,A,A)	3~4kg/10a	穂揃期まで	2回以内	散布	エトフェンロックス3回以内、カスガマイシン4回以内(但し、種子浸漬は1回以内、育苗箱への処理は1回以内、本田では2回以内)、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)、バリダマイシン6回以内(但し、育苗箱灌注は1回以内、本田では5回以内)	-
ネオニコチノイド、IGR、抗生物質、メラニン生合成阻害、抗生物質	24 16.1 26	4A 18	イックツエース粉剤DL(普)(A,A,A,A,A)	3~4kg/10a	穂揃期まで	2回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、テフプロキン2回以内、カスガマイシン4回以内(但し、種子浸漬は1回以内、育苗箱への処理は1回以内、本田では2回以内)、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)、バリダマイシン6回以内(但し、育苗箱灌注は1回以内、本田では5回以内)	-
ネオニコチノイド、メラニン生合成阻害、抗生物質	16.1 26 U14	4A	ノンプラスバリダダントツH粉剤DL(普)(A,A,A,A)	3~4kgまたは 4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	クロチアジジン4回以内(但し、移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)、バリダマイシン6回以内(但し、育苗箱灌注は1回以内、本田では5回以内)、フェリムゾン2回以内	-

系統	殺菌剤 コード	殺虫剤 コード	商品名	希釈倍数・使用 量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用 回数	使用 方法	成分含む 使用回数	備考
----	------------	------------	-----	----------------------	-----------------	----------	----------	--------------	----

【粉剤3】【いもち病+紋枯病+カメムシ類+ウンカ類+チョウ目等】つづき

ビレスロ イド,IGR,メ ラン生合成 成阻害, 一,メラン 生合成阻 害,酸アミ ド	16.1 20	3A 18	ビームモントレランナー 粉剤5DL(普)(B,B,A,B)	3~4kg/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	エトフェンプロックス3回以内,メキシ フェノジド3回以内,トリシクラゾール4 回以内(但し、育苗箱への処理は1回 以内、本田では3回以内)、ペンシクロ ン4回以内	-
IGR,IGR, メラン生 合成阻害, 酸アミ ド	16.1 7	18 16	コルター2号F粉剤DL (普)(A,B,A,B)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	テブフェノジド2回以内,プロフェジン 4回以内(但し、小包装投入は1回以 内)、フサライド3回以内,フルトナリル3 回以内(但し、小包装投入は1回以内)	カメムシ類適用なし
ネオニコ チノイド,ネ オニコチ ノイド,抗 生物質, 一,メラン 生合成阻 害	26 U14 16.1	14 4A	ハスラー粉剤DL (普)(Bs,A,A,A,A)	3~4kgまたは 4kg/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	カルタップ6回以内(種もみ浸漬は1回 以内、床土への混和及び育苗箱への 処理及び側条施用は合計1回以内)、 クロチアニジン4回以内(但し、移植時 までの処理は1回以内、本田での散 布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3 回以内)、バリタマイシン6回以内(但 し、育苗箱灌注は1回以内、本田では 5回以内)、フェリムゾン2回以内,フサ ライド3回以内	-
ネオニコチ ノイド,メ ラン生合成 成阻害,酸ア ミド	16.1 7	4A	ビームモンカッター クルF粉剤5DL (普)(A,A,B)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱へ の処理及び側条施用は合計1回以 内、本田での散布、空中散布、無人 ヘリ散布は合計3回以内)、トリシクラ ゾール4回以内(但し、育苗箱への処 理は1回以内、本田では3回以内)、フ ルトナリル3回以内(但し、小包装投入 は1回以内)	-

【液剤】【いもち病+紋枯病+カメムシ類+ウンカ類等】

ネオニコチ ノイド,メ ラン生合成 成阻害	16.1	4A	ビームエイトスタークル ゾル(普)(A,A)	1000倍,60~150 リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱へ の処理及び側条施用は合計1回以 内、本田での散布、空中散布、無人 ヘリ散布は合計3回以内)、トリシクラ ゾール4回以内(但し、育苗箱への処 理は1回以内、本田では3回以内)	紋枯病適用なし
ネオニコチ ノイド,メ ラン生合成 成阻害	16.1	4A	ラブサイドスタークルフ ロアブル(普)(A,A)	500倍,60~150 リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱へ の処理及び側条施用は合計1回以 内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ 散布は合計3回以内)、フサライド 3回以内	紋枯病適用なし
ネオニコ チノイド, ベンゾイ ミダゾール	1	4A	トップジンスタークルフ ロアブル(普)(A,A)	500倍,60~200 リットル/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱へ の処理及び側条施用は合計1回以 内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ 散布は合計3回以内)、チオファネート メチル3回以内(但し、種子への処理は1回以内)	墨黒穂病にも適用あり。
ビレスロ イド,ベン ゾイミダ ゾール	1	3A	トップジンレポソフ ロアブル(普)(B,A)	500倍,60~200 リットル/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	エトフェンプロックス3回以内,チオファネートメチル3 回以内(但し、種子への処理は1回以 内)	墨黒穂病にも適用あり。
ビレスロ イド,抗生 物質,メ ラン生合成 成阻害	24 16.1	3A	ダブルカットJフロア ブル(普)(A,A,A)	1000倍,60~200 リットル/10a	穂揃期まで	2回以内	散布	シラフルオフェン2回以内,カスガマイシン4回以 内(但し、種子浸漬は1回以内、育苗 箱への処理は1回以内、本田では2回 以内)、トリシクラゾール 4回以内(但し、育 苗箱への処理は1回以内、本田では3 回以内)	紋枯病適用なし
フェニル ピラゾール, ビレスロ イド,一, メラン生 合成阻	16.1	2B 3A	ビームキラップジョー カーフロアブル (普)(A,A,A)	1000倍,60~200 リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチローラ2回以内(但し、移植時 までの処理は1回以内)、シラフルオ フェン2回以内,トリシクラゾール4回 以内(但し、育苗箱への処理は1回以 内、本田では3回以内)	紋枯病適用なし
ビレスロ イド,一, メラン生 合成阻	U14 16.1	3A	ブラシンジョーカーフ ロアブル(普)(A,A,A)	1000倍,60~150 リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	シラフルオフェン2回以内,フェリム ゾン2回以内,フサライド3回以内	紋枯病適用なし。 変色米(ヒコカ ム菌)にも適用 がある。

【粒剤】【いもち病+カメムシ類+ウンカ類等】

ネオニコ チノイド, メラン生 合成阻	16.1	4A	コラトップダントツ1キ ロ粒剤(普)(A,A)	1kg/10a	出穂5日前まで	2回以内	散布	クロチアニジン4回以内(但し、移植時 までの処理は1回以内、本田での散 布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3 回以内)、ピロキロン 3回以内(但し、 育苗箱散布は1回以内、本田では2 回以内)	飼料用稲に使用可 カメムシ類の適用 については、大型 種カメムシ類では 効果が劣る。
ネオニコ チノイド, メラン生 合成阻	16.1	4A	コラトップスタークル1 キロ粒剤(普)(A,A)	1kg/10a	出穂5日前まで	2回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱へ の処理及び側条施用は合計1回以 内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ 散布は合計3回以内)、ピロキロン3回 以内(但し、育苗箱散布は1回以内、本 田では2回以内)	飼料用稲に使用可 カメムシ類の適用 については、大型 種カメムシ類では 効果が劣る。
フェニル ピラゾール, IGR	6	2B	フジワラップ粒剤 (普)(A,B)	3~4kg/10a	いもち病に対しては初発 7~10日前、穂いもちに 対しては出穂10~30日 前(但し、収穫30日前 まで)	2回以内	灌水散 布	エチローラ2回以内(但し、移植時 までの処理は1回以内)、イソプロ ピラゾール3回以内(但し、移植前 は1回以内、本田では2回以内)	カメムシ類の適用 については、大型 種カメムシ類では 効果が劣る。
ネオニコ チノイド, カーバ メート,一	P	14 1A	パダンパッサオリゼメ ート粒剤(劇)(Bs,Bs,B)	3~4kg/10a	収穫30日前まで	2回以内	散布	カルタップ6回以内(但し、種もみ浸 漬は1回以内、床土への混和、育苗 箱への処理及び側条施用は合計1回 以内)、BPMC5回以内,プロベナゾール 2回以内(但し、育苗箱への処理及び 側条施用は合計1回以内)	カメムシ類適用なし 白葉枯病にも適用 がある。

## 平成 27 年度農作物病虫害発生予察技術資料第 6 号

平成 27 年(2015 年) 8 月 12 日  
山口県病虫害防除所

### イネいもち病の発生状況と防除対策

このことについては、平成 27 年 7 月 27 日付け平成 27 年度農作物病虫害発生予察注意報第 2 号の発令により防除の徹底を呼びかけているところですが、その後も葉いもちの発生が拡大しており、今後、穂いもちの被害が懸念されます。

つきましては、以下のとおり防除対策の徹底をお願いします。

#### 1 発生状況

- (1) 8 月 5 日～7 日の巡回調査では、葉いもちの発生ほ場率 38.4%(平年 16.9%)、発病株率 18.3%(平年 4.7%)、発病度 5.1(平年 1.2)で平年に比べ多かった(図)。
- (2) 上記調査の葉いもちの発生したほ場では、上位葉への病斑の進展が認められる。

#### 2 今後の予想

- (1) 対象地域 県内全域
- (2) 発生量 多  
気象予報では、今後 1 か月の降水量は平年並みまたは多いと予想されており、穂いもちへの感染拡大が懸念される。

#### 3 防除対策

- (1) 防除時期
  - ア 出穂前のほ場で葉いもちが発生している場合は、直ちに防除を行う。この際、穂いもちの防除予定日まで 7 日以上ある場合(止葉抽出前)には葉いもちの防除を行い、その後、穂いもちの防除を実施する。
  - イ 穂いもちの防除を適期に実施する。粉剤・液剤は穂ばらみ後期及び穂揃期の 2 回行い、粒剤・パック剤は出穂前に施用する。
- (2) 防除薬剤  
平成 27 年山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準による。  
([http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp\\_open/a1720160/00000008/303作物1-7\\_本田用剤.pdf](http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp_open/a1720160/00000008/303作物1-7_本田用剤.pdf))

#### 4 防除上注意すべき事項

- (1) 粒剤・パック剤は、薬剤の種類によって使用時期が異なるので注意する。
- (2) 出穂後に天候不良が続く場合は、穂揃期の防除後 7 日～10 日目に再度防除する。
- (3) 農薬のラベルに記載の使用時期等の農薬使用基準を遵守する。
- (4) 防除を行う場合は、周辺の野菜等に農薬が飛散しないように注意する。

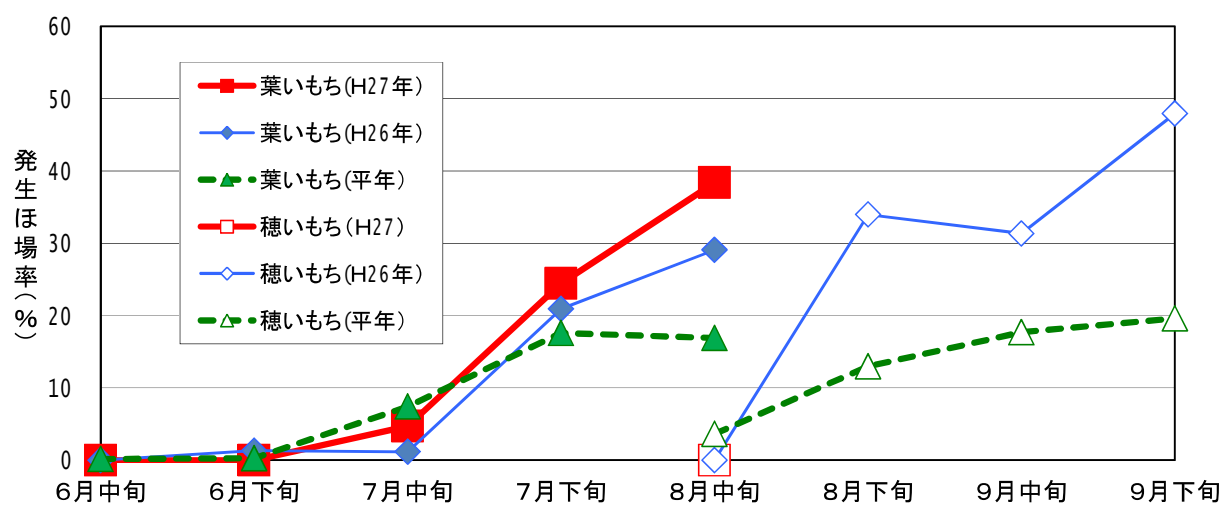


図 イネいもち病の発生推移



葉いもちの症状



穂いもち(穂首いもち)の症状